

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 06-326732

(43)Date of publication of application : 25.11.1994

(51)Int.Cl.

H04L 12/54

H04L 12/58

G06F 15/21

(21)Application number : 05-114307

(71)Applicant : HITACHI LTD

(22)Date of filing : 17.05.1993

(72)Inventor : TAKITA YUKIE  
ISE HIROTORI

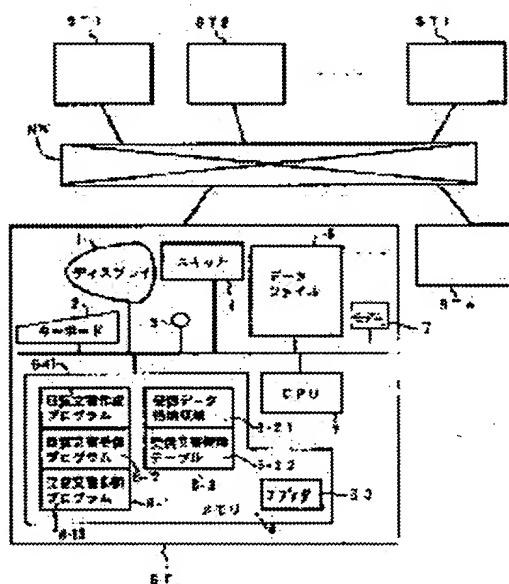
## (54) COMMENT MANAGEMENT SYSTEM IN DOCUMENT CIRCULATION

## (57)Abstract:

**PURPOSE:** To attain description of a comment not giving any interference to a format of a document in the document circulation utilizing an electronic mail and to manage a description personnel and a description date and time of the comment described in the document.

**CONSTITUTION:** Picture data are adopted for all documents sent/received between terminal equipments ST and the description of a comment at a terminal equipment receiving a document is realized by allowing a recipient to use an editor 6-3 prepared for each terminal equipment and to process the comment generated by the editor into a picture and to synthesize the edited picture comment onto the received document. A comment area is designated on the document displayed on a display device 1 through the use of a coordinate position designation means 3 by a sender or a recipient.

The coordinate information and comment area information such as a described personnel are generated in each comment area and the document with the synthesized comment and the comment area information are sent to a succeeding circulation destination by means of an electronic mail. The succeeding circulation destination displays the document based on the comment area information.



## LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision  
of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's  
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-326732

(43)公開日 平成6年(1994)11月25日

(51)Int.Cl.<sup>5</sup>

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

H 0 4 L 12/54

12/58

G 0 6 F 15/21

Z 8724-5L

8732-5K

H 0 4 L 11/ 20

1 0 1 B

審査請求 未請求 請求項の数9 O L (全 13 頁)

(21)出願番号

特願平5-114307

(22)出願日

平成5年(1993)5月17日

(71)出願人 000005108

株式会社日立製作所

東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地

(72)発明者 滝田 幸恵

神奈川県川崎市麻生区王禅寺1099番地 株

式会社日立製作所システム開発研究所内

(72)発明者 伊勢 広敏

神奈川県川崎市麻生区王禅寺1099番地 株

式会社日立製作所システム開発研究所内

(74)代理人 弁理士 薄田 利幸

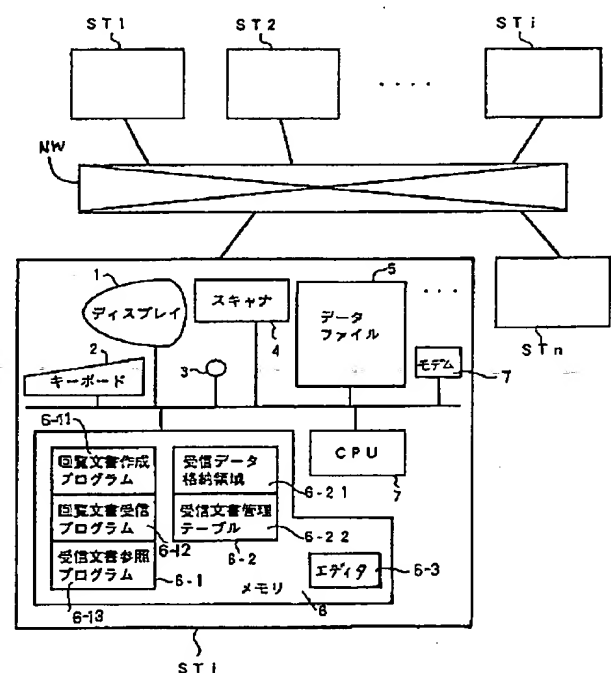
(54)【発明の名称】 文書回覧におけるコメント管理方式

(57)【要約】

【目的】電子メールを利用した文書回覧において、文書の書式を損わないコメント記入を可能とし、さらに、文書に記入されたコメントについて、その記入者や記入日時を管理する。

【構成】端末ST間で送受信される文書はすべて画像データとし、文書を受信した端末におけるコメント記入は、受信者が各端末に用意されているエディタ6-3を用いて作成したコメントを画像化し、受信文書に合成することにより実現される。コメント領域は、発信者あるいは受信者がディスプレイ1に表示された文書上で、座標位置指定手段3を用いて指定する。各コメント領域については、その座標情報と、記入者等のコメント領域情報が生成され、コメントの合成された文書とコメント領域情報とが電子メールにより次の回覧先へ送信される。次の回覧先では、コメント領域情報に基づいて文書の表示を行う。

図 1



**【特許請求の範囲】**

【請求項1】文書作成手段と、表示手段と、表示された文書に対して領域を指定する領域指定手段と、入力手段と、該領域の座標情報を含む領域情報を生成する領域情報生成手段と、メモリとを持つ端末が、複数接続された通信システムにおける電子メールを利用した文書閲覧方法において、

前記端末の1つにおいて、表示手段に表示された文書に対してコメント領域指定手段により指定コメント領域を確保し、該コメント領域へコメントを記入してコメント記入済み文書を生成し、該コメント記入済み文書および領域情報生成手段により前記コメント領域情報を次端末へ送信し、

該次端末では、受信した前記コメント領域情報をもとに、コメント記入済み文書の前記コメント領域を他の領域と区別して表示手段に表示することを特徴とするコメント管理方法。

【請求項2】請求項1記載のコメント管理方法において、前記端末で、前記領域指定手段により指定された領域をコメント領域として確保し、

前記文書作成手段としてのテキストエディタにより作成されたテキストデータを、画像データに変換し、前記コメント領域に画像合成して前記コメント記入済み文書を生成し、

前記コメント領域の座標情報と、コメント記入者と、記入日時とを含む前記コメント領域情報を生成することを特徴とするコメント管理方法。

【請求項3】請求項1記載のコメント管理方法において、コメント記入済み文書およびコメント領域情報を受信した次端末では、該コメント領域情報を利用してコメント領域を複数の領域に区別できるコメント領域枠を生成し、コメント記入済み文書に重ね合わせて表示することを特徴とするコメント管理方式。

【請求項4】請求項1記載のコメント管理方法において、前記1つの端末において、確保した各コメント領域ごとに各々のコメント記入予定者を指定し、文書に対してコメント領域指定手段により指定コメント領域を確保し、

領域情報生成手段により前記文書に対するコメント領域の座標情報とコメント記入予定者を含むコメント領域情報を生成し、該文書およびコメント領域情報を次端末へ送信し、

次端末において、受信したコメント領域情報におけるコメント記入予定者をもとに、コメント領域へのコメント記入の可否を判定し、記入可能であれば、コメント記入を受け付け、コメント記入済み文書を生成し、該コメント記入済み文書および領域情報生成手段により生成されたコメント領域情報を次々端末へ送信することを特徴とするコメント管理方法。

【請求項5】請求項1記載のコメント管理装置におい

て、前記1つの端末において、文書中にある全てのコメント領域に対応するコメント領域情報にあらかじめ記入予定者を定義し、

次端末では、受信したコメント領域情報におけるコメント記入予定者をもとに、コメント領域へのコメント記入の可否を判定し、記入可能であれば、コメント記入を受け付け、コメント記入済み文書を生成し、コメント記入済み文書および領域情報生成手段により生成されたコメント領域情報を次端末へ送信することを特徴とするコメント管理方法。

【請求項6】請求項2記載のコメント管理方式において、テキストエディタにより作成されたテキストデータの表示領域を画像データに変換し、確保済みのコメント領域に画像合成する際に、前記表示領域のサイズをチェックし、コメント領域のサイズに合わせて画像データを拡大／縮小することを特徴とするコメント管理方法。

【請求項7】請求項2記載のコメント管理方式において、テキストエディタにより作成されたテキストデータの表示領域のサイズとコメント領域のサイズが異なる場合、確保済みのコメント領域を前記表示領域のサイズに合わせて再確保することを特徴とするコメント管理方法。

【請求項8】文書編集手段と、文書を表示する表示手段と、表示された文書に対して記入領域を指定する領域指定手段と、入力手段と、該領域の座標情報を含む領域情報を生成する領域情報生成手段と、メモリとを持つ端末が、複数接続された通信システムにおける、電子メールを利用した文書閲覧システムにおいて、

前記端末で、座標位置指定手段を利用して、文書に対してコメントを記入するための領域を指定し、該座標位置指定手段により指定された領域をコメント領域として確保する領域指定手段と、

テキストエディタを利用した、テキストエディタにより作成されたテキストデータを画像データに変換し、確保済みのコメント領域に画像合成することによりコメント記入済み文書を生成するコメント記入手段と、コメント領域の座標情報とコメント記入者と記入日時とを含むコメント領域情報を生成する領域情報生成手段とを備えたことを特徴とするコメント管理装置。

【請求項9】請求項8記載のコメント管理装置において、前記各端末は、確保したコメント領域ごとにコメント記入予定者を指定する記入者指定手段と、文書に対して指定コメント領域を確保しコメント領域の座標情報とコメント記入予定者を含むコメント領域情報を生成する領域情報生成手段と、文書およびコメント領域情報を次端末へ送信する手段と、受信したコメント領域情報におけるコメント記入予定者をもとにコメント領域へのコメント記入の可否を判定する手段と、コメント記入を受け付けコメント記入済み文書を生成するコメント記入済み文書生成手段と、該コメント記入済み文書を次々端末

へ送信する手段とを備えたことを特徴とするコメント管理装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、電子メールを利用した複数の端末間での文書回覧に係り、各端末上で文書に対して記入されるコメントの管理方法及び装置に関する。

【0002】

【従来の技術】近年、オフィスでの生産性を高めることを目的としてネットワークシステムを備えたOA環境の構築が進められている。ネットワークシステムを利用して、電話回線、LANなどに接続された端末間で文書を交換する手段として電子メールがある。電子メールにより受信した文書に対してコメントを付けて文書の発信元に返信したり、それ以外の人に送信するような場合、文書の受信者は、エディタを用いて受信文書の編集作業を行うなどして、コメントの挿入、追加を施した文書を作成し、送信することができる。ただし、文書を複数の人に回覧する場合には、コメントの挿入、追加に伴う文書の書き替えが繰り返されるため、文書とコメントの区別も、記入されたコメントが誰によるものなのかも文書の受信者の判断に任される。

【0003】電子メールを利用してコメントと文書を送受信する方法として、例えば特開平1-270167号がある。特開平1-270167号では、コメントを文書に貼り付けるメモとして扱うメモ付き文書の送受信を、電子メールにより送受信するデータを文書データとメモデータとに分割し、文書にメモが貼り付けられる度にメモデータを追加することにより実現している。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】組織内に発生するオフィス業務では、いくつかの記入欄が設けられた定形の書式を持つ文書に対して、担当者が記入欄に必要な事項を記入し、次に、その上長が別の記入欄にコメントを記入し、必要に応じて関連部門の関係者が所定の記入欄にコメントを記入するようになっているものが多い。このように、複数の人に回覧し、所定の記入欄が順次埋められることにより完成するビジネス文書は非常に多い。

【0005】このような文書を電子メールを利用して回覧する場合には、文書自体を書き替えることなくコメントをメモとして追加していく方法もあるが文書ファイルの管理が複雑になる。むしろ、1つの文書を順次回覧しながら各回覧先で文書自体に直接コメントを記入し、文書を書き替えていくほうが望ましい。もちろん、文書の書き替えに伴い、書式が損なわれてはならない。

【0006】本発明の目的は、異機種種の端末間での電子メールを利用した文書回覧において、文書の書式を損なわないコメント記入を可能とするコメント管理方式を提供することにある。

【0007】本発明の他の目的は、電子メールで回覧さ

れる文書に記入されたコメントについて、コメントの記入者や記入日時を管理する方式を提供することにある。

【0008】

【課題を解決するための手段】本発明では、電子メールで文書を受信した端末において、その文書をディスプレイに表示し、受信者がディスプレイ上で文書に対するコメント記入作業を行う。受信者は、コメント記入作業として、文書に対してコメントを記入したい領域を位置指定手段により指定して、その領域をコメント領域として確保する。端末では、さらに、確保済みのコメント領域へのコメント記入を実行すると共に、コメント領域の座標位置、コメント記入者、記入日時等を付加して、コメント領域情報を生成する。そして、コメントの合成された文書とコメント領域情報とを合わせてコメント付き文書として、電子メールにより次の回覧先へ送信する。

【0009】文書中に記入する必要のないコメントについては、文書を書き替えないメモを併用する。

【0010】

【作用】端末では、受信した文書に、コメント領域情報の座標情報から生成したコメント領域枠を重ねあわせてディスプレイに表示する。受信者はディスプレイ上で、文書中にコメント領域枠で囲まれたコメントを見分け、各コメントについて、記入者および記入日時を参照することが可能である。また、ディスプレイ上に表示されている文書に対して、コメントを記入したい位置を座標位置指定手段等により指定し、エディタ等でコメントを作成することにより、コメントを記入することも可能である。さらに、文書の発信者が、文書および回覧先を入力し、回覧を開始する前にあらかじめ文書中に数個のコメント領域を確保し、各コメント領域を特定の回覧先に割当てておくことにより、各回覧先で各自に割当てられているコメント領域に対してコメントを記入していくような文書回覧も可能となる。

【0011】

【実施例】以下、本発明の実施例を図面を用いて説明する。図1は、電子メールを利用した文書回覧を実現するためのシステム構成を示す。端末ST1、…、STnは電話回線等のネットワークNWに接続されており、端末間では電子メールによる文書の送受信が可能である。

【0012】各端末のユーザは、端末に文書と回覧先を入力して文書回覧を開始し、一方では、端末を介して受信した文書を参照し、さらに、その文書を次の回覧先へ送信する。いずれの場合も、文書を送信する前に、必要に応じて、文書に対してコメントを記入したり、メモを添付してもよい。ただし、文書およびコメント、メモは画像データ形式で電子メールにより送受信するものとする。

【0013】端末STjの構成は、図に示すように、ディスプレイ1と、キーボード2と、座標位置指定手段3と、スキャナ4と、データファイル5と、メモリ6と、

CPU7とモデム8とからなる。メモリ6は、ROM6-1とRAM6-2とエディタ6-3とから構成されている。ROM6-1は、文書を作成し、回覧を開始するための回覧文書作成プログラム6-11と、電子メールにより受信した文書をデータファイル5に格納するための回覧文書受信処理プログラム6-12と、データファイル5に格納されている文書を参照するための受信文書参照プログラム6-13とからなる。RAM6-2は受信した電子メールを一時格納しておく受信データ格納領域6-21と、データファイル5に格納した文書を管理する受信文書管理テーブル6-22とからなる。

【0014】図2は、文書に記入されたコメントの管理方法を示す。文書10の受信者が、端末Aで、コメントを記入したい領域11aを座標位置指定手段3により指定し、エディタ6-3を用いてコメントを作成すると、領域11aはコメント領域として確保される。コメントの表示領域12は画像データ（コメント画像）に変換されてコメント領域11aに貼り付けられるように合成される。ここで、コメントの表示領域12のサイズがコメント領域11aのサイズと異なる場合には、コメント画像はコメント領域11aのサイズに合うように拡大／縮小されてからコメント領域11aに合成される。あるいは、逆に、コメントの表示領域12のサイズに合わせてコメント領域11aを再指定することも可能である。

【0015】このように、文書へのコメント画像の合成が行われると、次の回覧先（端末B）には、コメント画像の合成を受けて書き替えられた文書13と、文書13中のコメント画像を合成されたコメント領域11bに関するコメント領域情報14とを送信する。コメント領域情報14は、文書13中のコメント領域11bを示す座標情報（始点(X1, Y1)、終点(X2, Y2)）と、コメント記入者名と、コメント記入日時とからなる。次の回覧先の端末Bでは、文書13とコメント領域情報14とを受信して、ディスプレイ1に文書13を表示し、さらに、文書13中のコメント領域11bについては、コメント領域情報14をもとに、コメント領域11bの色分け表示や、コメント記入者名、記入日時の表示制御を行う。そして、端末Aと同様にコメントを記入し、次の回覧先へ送信する。このように、文書10は端末間でやり取りされる間に幾度ものコメント記入操作を受け、その度にコメント領域情報を追加され、文書10に記入されたコメントの数だけコメント領域情報を持つことになる。

【0016】図3は、各端末上で起動される文書回覧システムのフローチャートである。システムが起動されると、まず、ステップ32で、ディスプレイ1に初期画面が表示される。メール受信時には、ステップ36のメール受信処理に移る。ユーザが初期画面上でコマンドを入力すると、ステップ40のコマンド入力処理に移り、システム終了コマンド入力時には、システムを終了する。

【0017】まず、ステップ40のコマンド入力処理に

ついて説明する。図4に示すように、ユーザは、初期画面上で、回覧文書作成コマンド（402）と、受信文書参照コマンド（406）と、システム終了コマンド（410）の入力が可能である。ユーザが回覧文書作成コマンドを入力すると、ステップ404の回覧文書作成処理に移り、受信文書参照コマンドを入力すると、ステップ408の受信文書参照処理に移る。

【0018】回覧文書作成処理404では、ユーザからの文書および回覧先の入力を受け付け、回覧を開始する。ユーザは、自分が入力した文書に対してコメント記入やメモ添付を施してから、回覧の開始を要求することもできる。

【0019】図5に回覧文書作成処理の処理フローを示す。まず、ステップ4041で、図6に示すような回覧文書作成画面を表示する。画面上には、文書入力モードに移るための文書入力コマンド511と、回覧先入力モードに移るための回覧先入力コマンド512と、コメント記入モードに移るためのコメント記入コマンド513と、メモ添付モードに移るためのメモ添付コマンド514と、回覧文書処理を終了するための取消コマンド515と、入力した文書の回覧を開始するための送信コマンド516と、入力された文書、コメント、メモを表示するための文書表示スペース517とが用意されている。

【0020】ユーザにより各コマンドが入力されると、ステップ4043の文書入力処理、ステップ4045の回覧先入力処理、ステップ4047のコメント記入処理、ステップ4049のメモ添付処理が行われる。ユーザが取消コマンド515を入力すると、そのまま回覧文書作成処理を終了し、送信コマンド516を入力すると、回覧を開始するためにステップ4052で最初回覧先に対する文書送信処理を行う。

【0021】文書入力処理4043では、図7に示すような、エディタ起動、スキャナ4による画像文書の読み込み、データファイル5に格納されている文書（画像データ）の呼出しを行うためのコマンド（531、532、533）と、文書を作成するための文書入力スペース536とが用意されている文書入力画面を表示し、ユーザはこれらを利用して文書を作成する。但し、端末間でやり取りする文書は画像データであるから、エディタで作成した文書は画像データに変換される。

【0022】回覧先入力処理4045では、図8のような回覧先入力画面553を表示して、回覧先入力を受け付け、回覧先リストを作成する。

【0023】コメント記入処理4047を図9に示す。まずステップ40471において、図10のようなコメント作成画面を表示し、これからコメントを記入しようとする文書をコメント作成スペース717に表示する。ユーザは、コメント領域指定コマンド711を入力し、コメント作成スペース717上でコメントを記入したい領域を座標位置指定手段3で指定することにより、その

領域をコメント領域として確保し、そして、コメントをエディタ起動、スキャナ入力、文書呼出しにより作成する。

【0024】ユーザによるコメント領域の指定およびコメント作成が終了すると、ステップ40473でコメントの表示領域を画像データ（コメント画像）に変換する。ステップ40474でコメントの表示領域のサイズをチェックし、ステップ40475でコメント領域のサイズに合わせてコメント画像を拡大／縮小した後、ステップ40476でコメント領域へのコメント画像の合成を行う。なお、コメント画像を拡大／縮小する代わりに、コメントの表示領域のサイズに合わせてコメント領域を再確保してもよい。このように、文書へのコメント画像の合成を行うとともに、画像合成が行われたコメント領域について、ステップ40477で領域の座標情報とコメント記入者とコメント記入日時とからなるコメント領域情報を生成する。

【0025】上記のような、コメント記入者自身がコメント記入時にコメント領域を確保する以外に、回覧先入力処理により入力済みである回覧先について、文書の発信元で、各回覧先についてコメントを入力すべき領域を確保し、各回覧先に領域を割り当てることも可能である。この場合、上記と同様なコメント領域情報において、コメント記入者の代わりにコメント記入予定者を指定することにより、コメント領域を特定の回覧先に割り当て、実際にその回覧先によりコメントが記入された時点で記入日時が書き込まれる。

【0026】メモ添付処理4049では、メモの宛先を指定するための図1.1のような宛先入力画面5.9.3を表示する。ユーザによる宛先入力終了すると、文書入力画面やコメント作成画面と同様な入力を可能とする、図1.2のようなメモ作成画面5.9.9を表示する。ここで作成されたメモも同様に画像データに変換され、その画像データ及び宛先及び作成者名、作成日付は、メモ情報として、文書とコメント領域情報と共に次の回覧先へ送信される。

【0027】文書送信処理4052では、入力済みの文書、回覧先リスト、コメント領域情報、メモ情報から、図1.3に示すような送信データ600を作成し、次の回覧先（ここでは、最初の回覧先）へ送信する。この送信データ600は、メールヘッダ611、発信者612、回覧開始日時613、回覧先リスト614、文書データ615、コメント領域情報616、メモ情報617からなっている。回覧先リスト614中の参照フラグ614.2Bは、ユーザにより入力された各回覧先への文書の回覧が済んでいるかどうかを示すものであり、回覧先入力処理4045における回覧先リスト作成時に「未回覧」にセットされ、各回覧先への回覧時に回覧先の端末により「未回覧」から「回覧済み」へと書き替えられる。このため、回覧先リストにより各回覧先についての回覧状

態が得られ、次に送信すべき回覧先が容易に取得できる。

【0028】図1.4には、受信文書参照処理を示す。端末は電子メールにより図1.3のような送信データ600を受信すると、後述のメール受信処理により、受信データをデータファイル5に格納し、そのデータを受信文書管理テーブル6-2.2により管理する。端末のユーザは、データファイル5に格納されている自分宛ての文書の一覧表、及び一覧表に含まれるすべての文書の参照が可能である。

【0029】ユーザが、初期画面上で受信文書参照コマンドと参照したい文書を入力すると、受信文書参照処理が呼び出され、ステップ4081で図1.5に示すような回覧文書参照画面を表示する。文書表示スペース816には、指定された文書を表示し、コメント領域情報の座標情報をもとに、コメント記入済みのコメント領域816A、816B・・・及びユーザに割り当てられているコメントを記入すべきコメント領域816Nを示すコメント領域枠を生成し、文書に重ね合わせて表示する。

【0030】なお、回覧される文書として、例えば、改善提案書のように予め定形のフォームが用意されており、社内のある部署で起案され、その上長のコメントを付して関係部署へ順次回覧され、各々コメントを付された後、最終の取まとめ部署へ送付されるものが考えられる。このような定形フォームの例では、回覧者とその順序、各回覧者のコメント記入欄は決まっているので、各々所定の領域にコメントを記入すればよい。

【0031】文書にユーザ宛てのメモが添付されている場合には、図1.6のようにメモ817も表示する。回覧文書作成処理と同様に、画面上のコマンドをユーザが入力することにより、ステップ4083のコメント属性表示処理、ステップ4047のコメント記入処理、ステップ4049のメモ添付処理が行われる。コメント属性表示処理4083では、文書中のコメント領域について、コメント領域情報をもとに、コメント領域816の色分け表示や、コメント記入者名、記入日時の表示を行う。コメント記入処理4047では、ユーザは文書の発信元により割り当てられている自分が記入すべきコメント領域にコメントを記入してもよいし、新たにコメント領域を確保して、そこにコメントを記入してもよい。ただし、すでに確保されているコメント領域と重なりを生じるような新たなコメント領域を指定することはできない。発信元により割り当てられているコメント領域にコメントを記入した場合は、受信データ中の該当するコメント領域情報について記入日時を書き込み、新たに確保したコメント領域にコメントを記入した場合には、そのコメント領域に関するコメント領域情報を生成する。

【0032】送信コマンド入力時には、次の回覧先への送信データの作成及び送信を行う文書送信処理4052が行われる。送信データ作成時には、回覧リスト中にあ

る自分の参照フラグを書き替え、自分が新たに確保したコメント領域に関するコメント領域情報および自分が添付したメモに関するメモ情報を追加する。さらに、他の閲覧先には関係のない自分宛のメモ情報を取り除くことも可能である。

【0033】次に、図17のメール受信処理について説明する。ステップ362で、受信した電子メールを受信データ格納領域6-21に一時格納する。そして、ステップ364で、受信データ600からメールヘッダ611を取り除き、文書及びコメント領域情報、メモ情報612～617のみを抽出し、データファイル5に格納する。ステップ366では、図18に示すような受信文書管理テーブル6-22に、文書の受信日時と、発信者名と、文書及びコメント領域及びメモ情報の格納ファイル名を書き込む。

【0034】

【発明の効果】本発明によれば、文書の発信者は、端末に文書および閲覧先を入力し、文書中に数個のコメント領域を確保し、各コメント領域を特定の閲覧先に割当て、それから文書を閲覧することが可能となる。各閲覧先では、文書を受信すると、自分に割当てられているコメント領域にコメントを記入したり、或いは、必要に応じて、自分で新たなコメント領域を確保して、その領域にコメントを記入することが可能である。また、受信した文書に既に記入されているコメントについては、その記

入者および記入日時の参照が可能である。

【図面の簡単な説明】

【図1】システム構成図。

【図2】コメント管理方法。

【図3】文書閲覧システムのフローチャート。

【図4】コマンド入力処理。

【図5】閲覧文書作成処理。

【図6】閲覧文書作成画面。

【図7】文書入力画面。

【図8】閲覧先入力画面。

【図9】コメント記入処理。

【図10】コメント作成画面。

【図11】メモ宛先入力画面。

【図12】メモ作成画面。

【図13】送信データ。

【図14】受信文書参照処理。

【図15】受信文書参照画面。

【図16】メモ付き文書参照画面。

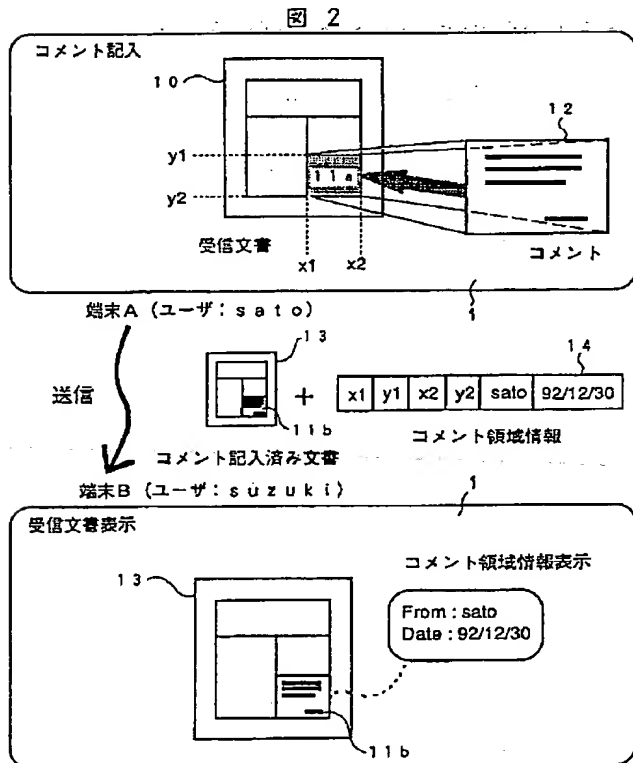
【図17】メール受信処理。

【図18】受信文書管理テーブル。

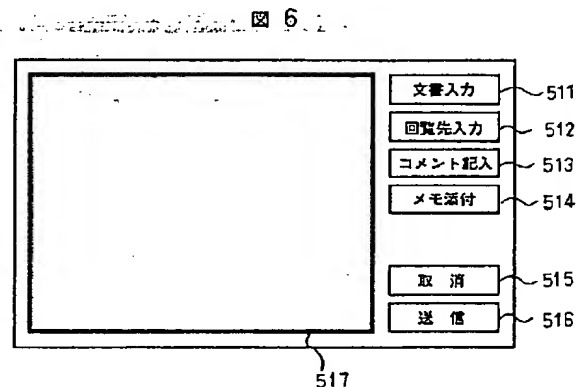
【符号の説明】

1…ディスプレイ、2…キーボード、3…座標位置指定手段、4…スキャナ、5…データファイル、6…メモリ、7…CPU、S…端末、NW…電話回線等のネットワーク

【図2】



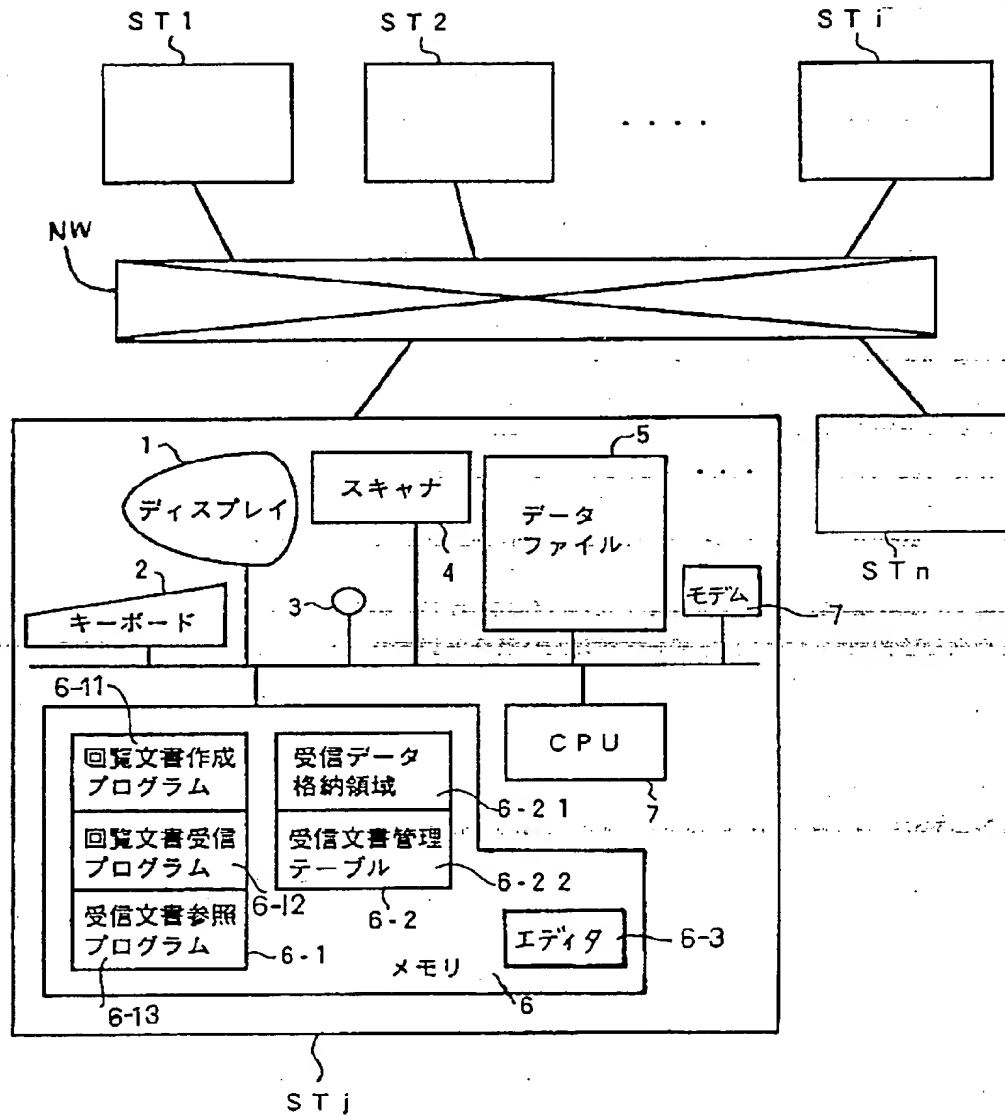
【図6】





【図1】

図 1



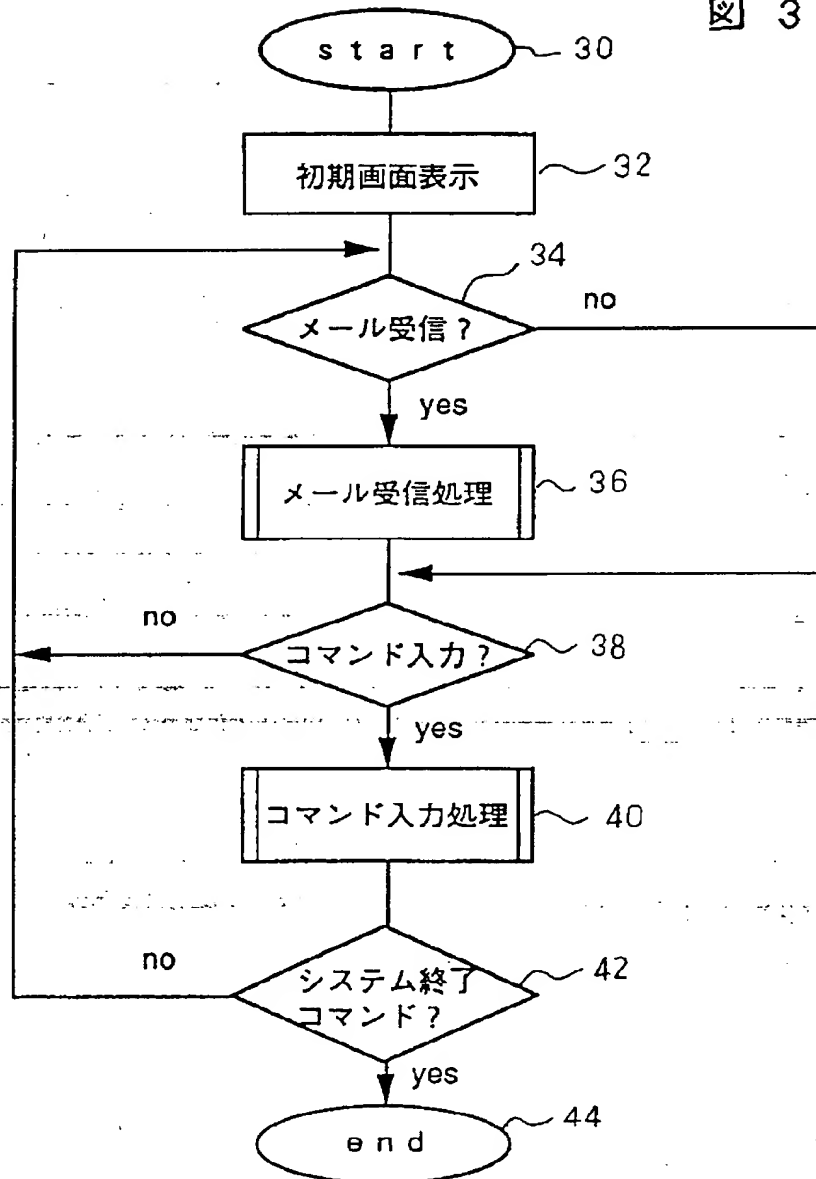
【図18】

図18

No.	受信日時	発信者名	格納ファイル名

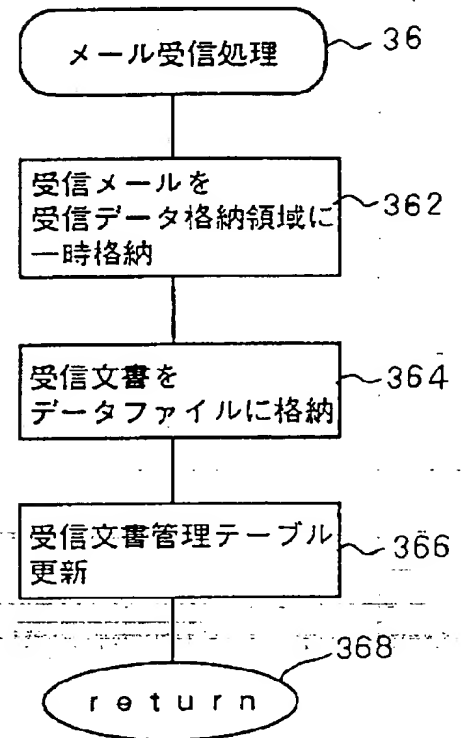
【図3】

図 3



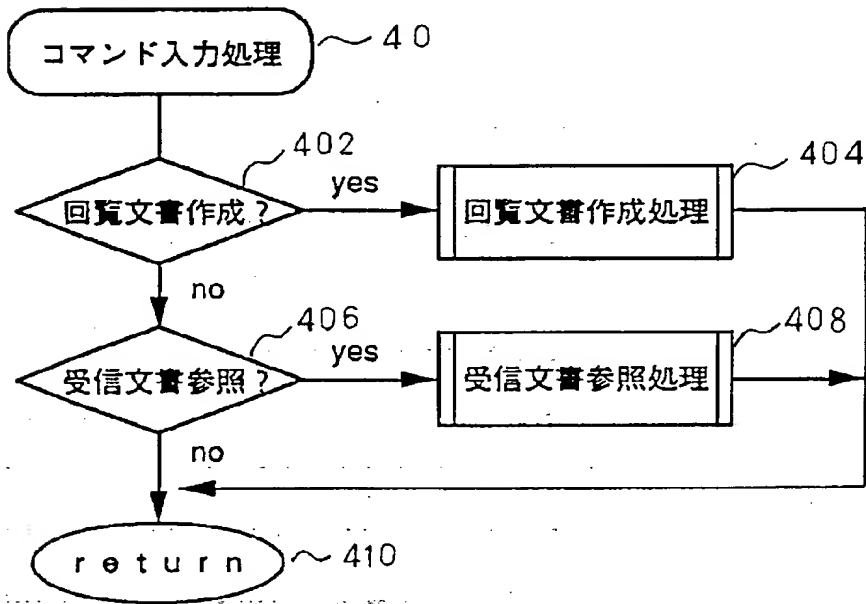
【図17】

図 17



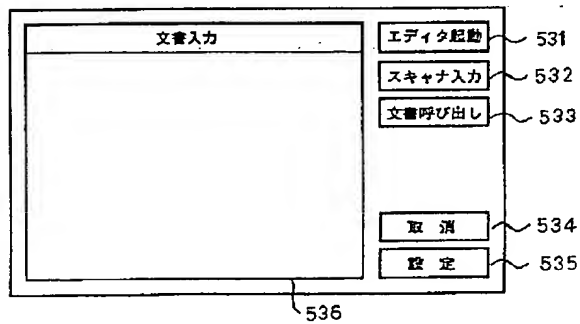
【図 4】

図 4



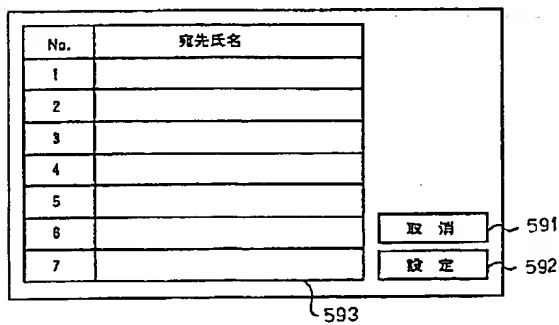
【図 7】

図 7



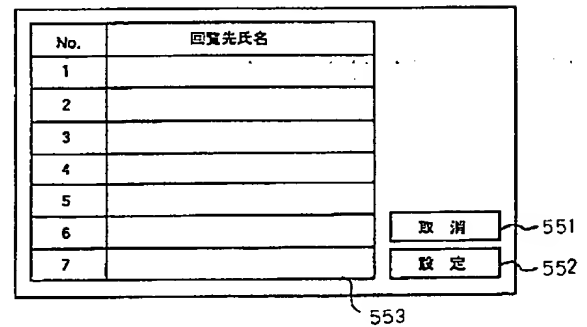
【図 11】

図 11



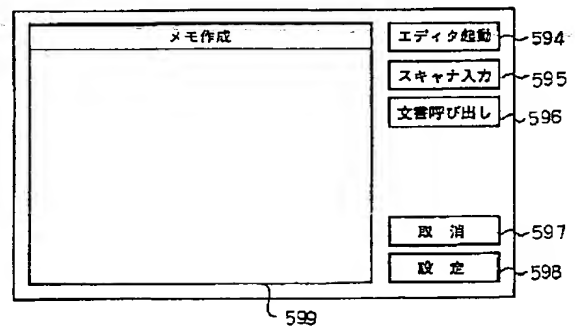
【図 8】

図 8



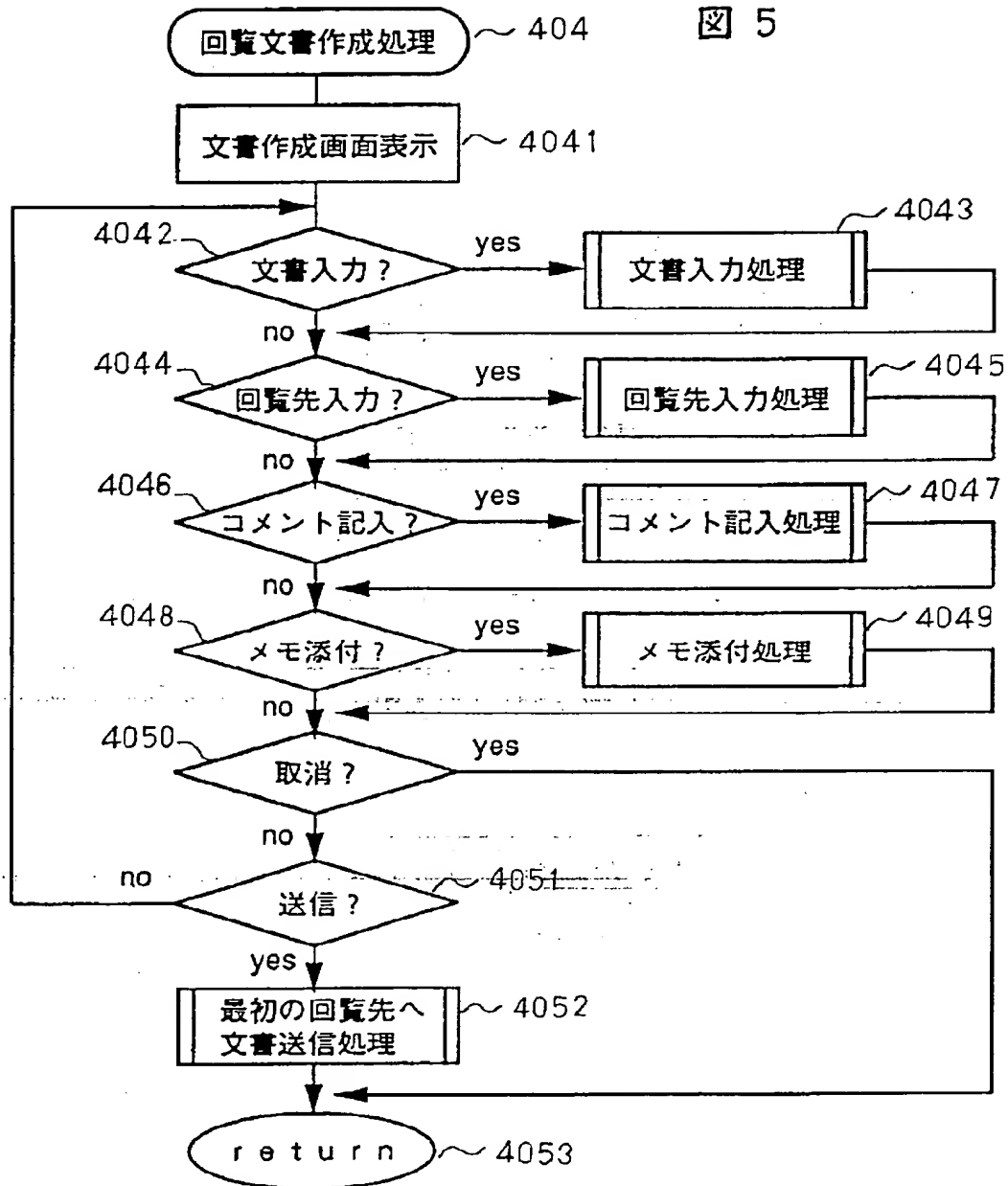
【図 12】

図 12



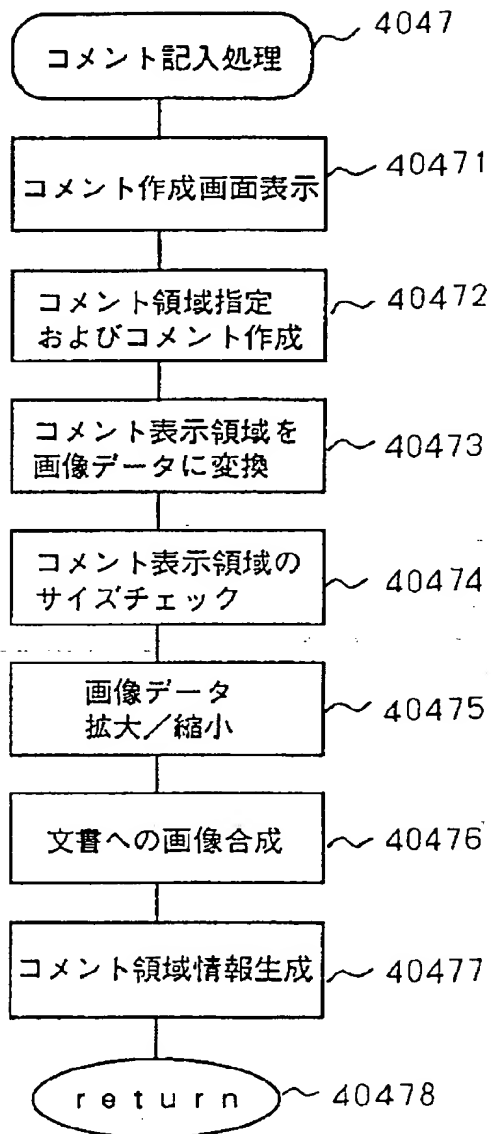
【図5】

図 5



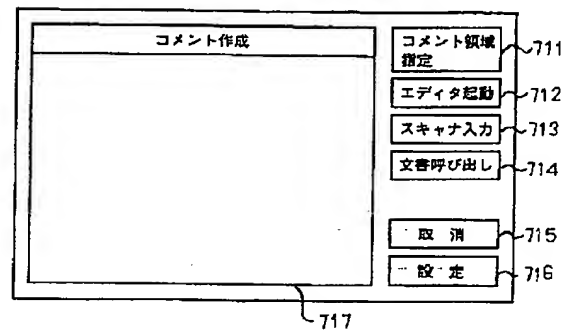
【図 9】

図 9



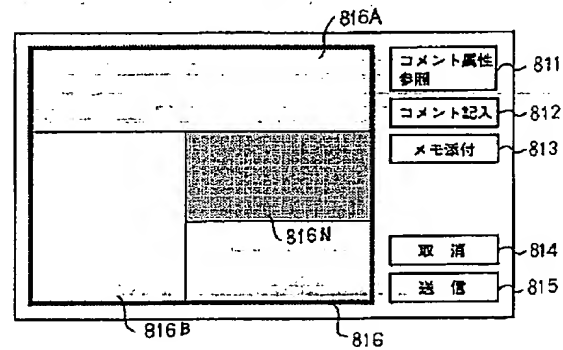
【図 10】

図 10



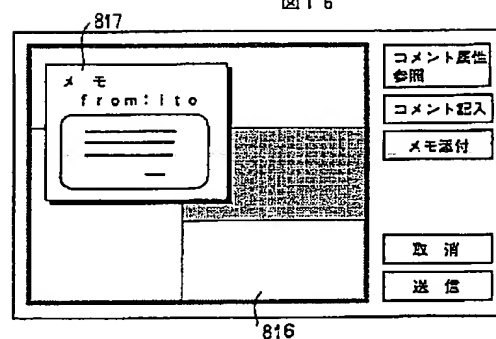
【図 15】

図 15



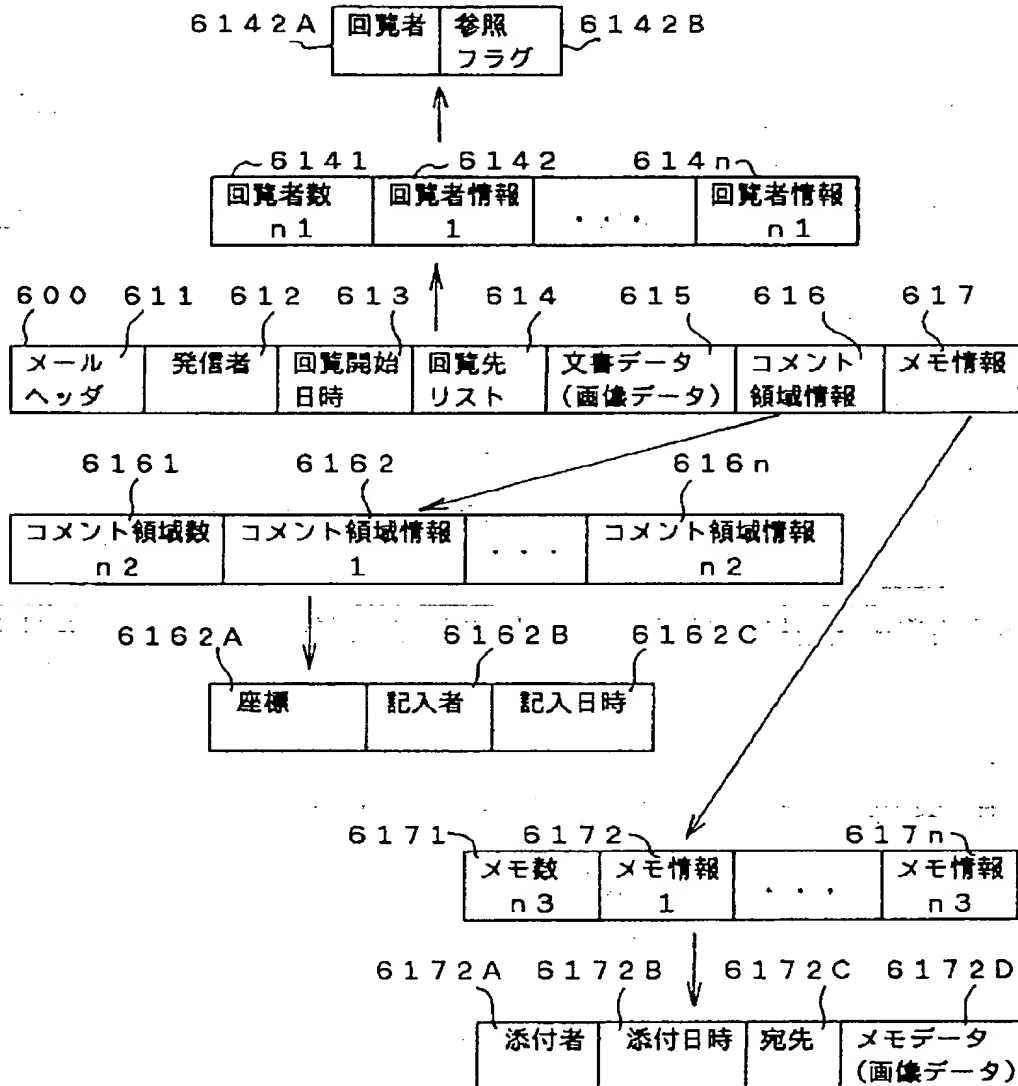
【図 16】

図 16



【図13】

図 13



【図14】

図14

